

音楽科学習指導案

指導者 中村 恵美子

- 1 日 時 令和6年11月16日(土) 第2校時(10:05~10:50)
- 2 学年・組 3年1組 計32名(男子16名, 女子16名)
- 3 場 所 音楽教室
- 4 題 材 名 五音音階の響きで味わう伝統音楽
- 5 題材について

本題材では、小学校学習指導要領A表現から器楽・音楽づくりを関連付けて目標を設定する。

一つの曲で用いられる音組織について、一般的に、使われる音を順に並べた1オクターブのまとまりを音階として捉えることが多い。日本の音楽の場合には、オクターブに満たない場合や、オクターブを超えると異なる音の並びになる場合もあるが、完全4度の枠の間に中間音を位置付けるテトラコルドを音組織の基本的な単位として重ねると、都節音階・律音階・民謡音階・沖縄音階のように1オクターブからなる音階ができる。どの音階も、1オクターブ内の音の数が西洋の音階よりも少ない5音からなる。

本題材では、都節音階と民謡音階を扱う。都節音階は、箏の調弦や三味線の旋律によく使われる。完全4度の「ミーラ」の音の枠の間に中間音として「ファ」を位置付けた「ミファラ」と、「シーミ」の音の枠の間に中間音として「ド」を位置付けた「シドミ」の二つの「都節のテトラコルド」を重ねて「ミファラシドミ」という都節音階となる。民謡音階は、民謡やわらべうたなどに多く使われる。完全4度「ミーラ」の枠の中に中間音として「ソ」を位置付けた「ミソラ」, 「シーミ」の枠の中に中間音「レ」を位置付けた「シレミ」の二つの「民謡のテトラコルド」を重ねて「ミソラシレミ」という民謡音階となる。都節音階よりも明るく開放的な音階である。ここでは、五音音階の旋律の動きによって生まれる独特の日本的な響きを味わいながら、みんなで音楽をつくり上げていく楽しさをもって学習を展開する。

3年1組の児童は、これまで、日本古謡《うさぎ》では、歌詞の表す情景や気持ちを理解しながらうたったり、わらべうた《十五夜さんのもちつき》では、体を動かしながら表現したりすることで、リズムや拍や速度などが生み出すよさを味わいながら、音楽活動を楽しむことができた。しかし、曲想を生かして歌や体で表現することはできたが、旋律のもつ日本らしい響きがどこの部分から感じ取ることができたのか、曲想と音楽の構造の関わりを理解するところまで至っていない。

国語科においては、音読・暗唱集「わかば」にて、谷川俊太郎「どきん」、北原白秋「ひとつのことば」、宮沢賢治「雨ニモマケズ」いった様々な詩や物語を読んだり、暗記したり、内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりする活動を通して、表現力や共感力を身に付けている。国語科で既習の活動をふまえ、ここでは、伝統的な物語に合う音楽をつくることで、日本音楽の魅力をより深く考え、五音音階の響きを感じ取りながら伝統音楽のよさをより味わうことができるのではないかと考える。

指導にあたっては、五音音階の旋律の動きから呼び起こされる音階の雰囲気の違いを感じ取りながら、表現することに興味をもって取り組むことで、日本の音階に親しむことができるように配慮したい。そのため、まず、耳をすまして音を聴く活動の面白さを感じながら、西洋音楽と日本音楽の違いに気付く。その際、卓上ベルを扱って、音階の概念を耳で感覚的・体験的に確かめる。また、都節音階と民謡音階で調弦された箏の音色を味わい、音階による旋律の動きから呼び起こされる日本の風情を味わう。次に、五音音階の音楽づくりの創作意欲を高め、日本音楽の魅力を味わうことができるよう、あらかじめ暗記した「竹取物語」の原文一部に合う音楽をつくる。そして、グループに分かれて、一人2小節の旋律をつくり、それをグループでつなげていく。「竹取物語」の情景から音をイメージし、都節音階・民謡音階を用いて音楽をつくることで、日本の音階に親しむことができる学習を展開していきたい。

6 題材の目標

- (1) 日本の音階の響きの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、発想を生かして表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けることができる。
- (2) 旋律や音階などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、都節音階と民謡音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、まとまりを意識した音楽をつくろうと思いや意図をもつことができる。
- (3) 日本の音階をもとにして表現することに興味をもち、日本音楽のよさや面白さが広がることを実感しながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本の音階に親しむことができる。

7 指導計画（全5時間）

次	時	学習内容
1	1	音を聴く活動の面白さを感じながら、西洋の音階と日本の音階の違いに気付く。
	2	五音音階の響きから呼び起こされる日本の風情を、箏の音色の響きから味わう。
2	3・4	「竹取物語」に合う音楽を、都節音階と民謡音階を用いて音楽をつくる。
	5	日本の音階のよさや面白さが広がることを実感しながら演奏する。（本時5／5）

8 本時の目標

日本の音階のよさや面白さが広がることを実感し、まとまりを意識して表現の工夫をしたり、五音音階の響きを味わったりしながら、日本の音階に親しむことができる。【思考・判断・表現】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	日本音楽のよさや面白さを実感し、まとまりを意識して表現の工夫ができ、五音音階の響きを味わったりしながら、グループで合わせて一つの曲になるように演奏する。日本の音階に対する思いや考えがある記述・都節音階と民謡音階の旋律の動きから生み出される雰囲気を比較し、聴き取ったことと感じ取ったことが関連付けて示されている記述がある。
Ⅱ	五音音階の響きを味わい、グループで合わせて一つの曲になるように演奏することで、日本の音階に親しむ。日本の音階のよさを感じ取れている記述がある。（評価規準）
Ⅰ	日本の音階の響きの特徴をよく捉えられないまま、音楽づくり活動をしている。聴き取ったことや感じ取ったことのみ記述・未記入がある。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○ 西洋の音階と日本の音階を一音ずつ卓上ベルで聴き比べ、「同じ」「違う」を聴き分けながらペアリングをしたり、「高い」「低い」を聴き分けながら、順番に並べるグレーディングをしたりする学習活動を通して、聴感覚を働かせる活動を実施する。【授業構想力】	
○ 五音音階の響きを味わいながら、始まりや終わりの音をその音階の中心音になるように、音楽のまとまりを意識できるような声かけを行う。【授業実践力】	
○ 日本の伝統的な音楽は、音階の構成が少し違うだけで雰囲気の違う独特の世界であることを感じることができるように、音楽づくり活動を通して、旋律の特徴や音階の関わりを聴き取るができる活動を設定する。【授業実践力】	

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 前時の学習を振り返る。 2. 本時の課題について知る。	○ 前時の復習を行い、どの日本の音階を用いて音楽づくりをしてきたのか認識できるようにする。
五音音階の響きを味わいながら、みんなで《竹取物語》の音楽を演奏しよう。	
2. 全員で《竹取物語》の原文を音読したあと、グループごとに、一文ずつ音読する。 ・この一文の後で、わたしたちのグループの音楽を演奏するんだよね。 ・落ち着いてゆっくり読もう。 ・音楽をつなげる順番で並んでみよう。 ・都節音階の響きは、翁が生きていた時代からあったのかなあ。 4. グループごとに、都節音階または民謡音階を用いてつくった音楽を練習する。 ・練習する前に音階の響きを五音弾いてで味わってみよう。 ・最初と最後の中心音の音は、何の音だったかな。 ・まとまりのある音楽になるように、演奏する順番を入れ替えて工夫してみよう。 ・五音だけで、日本の音楽が作れるって不思議だね。 5. みんなで《竹取物語》の音楽をつなげて演奏する。 ・日本の音階と物語が一緒になると、もっと素敵になるね。 ・グループごとにつなげると、どのような《竹取物語》の音楽になるんだろう。 ・五音音階の響きは、昔から日本に伝わる響きだから、わたしたちもその響きを受け継ぎながら大切に演奏したいね。 6. 学習の振り返りをする。	○ 自分たちが演奏する箇所を確認したり、五音音階の響きをイメージしながら音読ができるように声かけをしたり、演奏する順番が分かりやすいように板書で示す。 ○ 都節音階と民謡音階を用いて音楽づくり活動をした内容を振り返りながら試行錯誤をすることができるように、グループで話し合う場面と練習する時間を十分に設ける。 ○ 五音音階の旋律の動きから醸し出される独特の日本的な味わいを感じることができるよう、グループごとにまとまった音楽を一つにつなげることができるように声かけをする。 ◆ 日本の音階のよさや面白さを実感し、まとまりを意識して表現の工夫をしたり、五音音階の響きを味わったりしながら、日本の音階に親しむことができる。【思考・判断・表現】 ○ 演奏して感じ取ったことをワークシートに記述するようにする。